

第1学年 算数科学習指導案

1 単元名「たしざん」

2 指導観

- 本単元は、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、それをを用いることができることを主なねらいとしている。

具体的には、①1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解すること、②1位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができること、③20までの数の構成や10に対する補数に着目して計算の仕方を考えることである。

本単元における考える内容の中心は、主に次のことである。

◎ 既習内容である10までの加法計算や20までの数の構成をもとにし、ブロックを用いた算数的活動や図による表現活動を通して繰り上がりのある計算の仕方を考えること。

ここで、既習の10の合成・分解や1位数どうしで繰り上がりのない場合の加法の計算方法をもとにして自らその計算の仕方を考えることは、十進位取り記数法の仕組みを理解していくことにつながり、2年生の2位数の加法の基礎となるという点で意義深い。また、具体物を用いた算数的活動や図・式に表す活動を行う中で、自分の考えを相手に分かりやすく表現する力を培う上でも価値がある。

- 本学年の児童は、これまでに、「いくつといくつ」において10を分解的にとらえたり、合成的にとらえたりする学習をしてきている。また、「あわせていくつ ふえるといくつ」では、加法の意味と和が10以内の加法計算の仕方を理解し、これを用いることができるようになってきている。さらに、「10よりおおきいかず」や「ふえたりへったり」では、20までの数の概念を理解すると共に、加数分解・被加数分解の基礎となる計算問題も学習してきている。

10までの合成・分解、1位数どうしの繰り上がりのない加法計算は、ほぼ確実にでき、念頭で計算できる児童も8割程度になってきた。また、「10よりおおきいかず」で10といくつの数の構成や計算も考えられるようになってきている。

また、考える力については、既習を想起しながら問題を解こうとする態度が少しずつ育ってきており、問題解決学習の基本的スタイルが身に付いてきている。また、ブロック操作しながら自分なりの考えがつけられるようにはなってきた。しかし、実際に操作したことを図や言葉で表して考えを表現することにはまだまだ支援を要する。

- 本単元の指導にあたって、10までの加法計算や20までの数の構成をもとにし、算数的活動を通して繰り上がりのある加法計算の仕方を考えることで、考える楽しさを味わうことができるようにしたい。

導入においては、カードゲームを通して既習内容と未習内容を整理し、「答えが10より大きくなるたし算の計算の仕方」について学習するという単元めあてを確かめると共に簡単な学習計画を立て、単元についての学習の見通しと意欲をもてるようにする。

展開においては、まず被加数が7加数が5の場合で繰り上がりのあるたし算の計算の仕方について考え、10のまとまりをつくるブロック操作を通して、既習の10までの加法に帰着すればよいことを見いだせるようにする。その際、操作したことをブロック図や計算の図などの図的表現を用いて自分の考えをつくることできるようにする。そして、小集団や全体で交流を重ねて考えを深め、より確かなものとしてできるようにする。その後、被加数が9、8、7の場合を同様に学習を進め、加数分解による計算の仕方の定着を図る。第7時の被加数が3の場合の計算の仕方の学習では、第2・3時でのいろいろな10のまとまりのつくり方を想起しながら、3を分けて10のまとまりをつくる被加数分解のよさに気付けるように学習展開を工夫する。

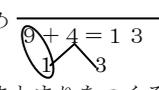
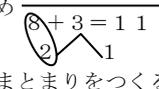
終末においては、計算カードを用いた活動を通して、1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算能力を高め、十分習熟を図る。最後に、カードゲームを通してできるようになった計算を確かめながら単元めあてをふり返り、繰り上がりのあるたし算の計算の仕方についてまとめる。

3 単元目標

- 数の構成や10に対する補数などの学習経験を生かして、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を進んで考える。
- 20までの数の構成や10に対する補数に着目して計算の仕方を考える。
- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができる。
- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解する。

4 指導計画（全12時間）

	第1時	第2時	第3時
目標	◎既習のたし算と繰り上がりのあるたし算の違いについて考える。（数考） ○1位数どうしの繰り上がりのあるたし算の計算の仕方を追究していこうという単元のめあてをもつ。 (関・意・態)	◎ブロックなどを用いた算数的活動を通して、被加数が7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。（数考）	◎小集団から全体交流への話し合いを通して、問題の解決方法を共有し、繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。（数考） ○被加数が7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算では、10のまとまりをつくれればよいことを理解できる。（知・理）
型	プロローグの場	数理獲得型－前半	数理獲得型－後半
学習活動と内容	1 本時のめあてを見いだす。 めあて _____ 「たしざん」で、どんなことをべんきょうするのかみつけよう。 2 自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 ○カードゲームを行い、計算カードの仲間分けの活動を通して既習内容と未習内容を整理 ・(1位数) + (1位数) = (10以下)のたし算の想起 3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○既習のたし算と未習のたし算との違い ・2人組での考えの説明 ・ブロックを操作しながら発表する。	1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。 問題 _____ おにいさんはくりを7こひろいました。いもうとは5こひろいました。あわせるとなんこになりますか。 めあて _____ 7 + 5のけいさんのしかたをかんがえよう。 2 自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 (1) 既習をもとに解決の計画を立てる。 ○「あわせていくつ ふえるといくつ」「10よりおおきいかず」での解決方法の想起 (2) 解決の計画を実行し、自分の考えをつくる。 ○被加数が7の場合の繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・ブロック操作 ・図や言葉での表現	1 本時のめあてを確認する。 めあて _____ 7 + 5のけいさんのしかたをはなしあつてたしかめよう。 2 自分の考えを説明し、考えを共有し合う。 『考えを高め合う場』 ○繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・2人組での考えの説明 ・ブロックを操作しながら発表する。 ・加数分解・被加数分解の考えの比較 (ア)の考え 7はあと3で10 5を3と2にわけ 7に3をたして10 ①7 + 3 = 10 10と2で12 ②10 + 2 = 12 こたえ 12こ (イ)の考え 5はあと5で10 7を5と2にわけ 5に5をたして10 ①5 + 5 = 10 10と2で12 ②2 + 10 = 12 こたえ 12こ
○は考える内容	4 単元のめあてをつかみ、学習計画を立て、単元の学習への見通しをもつ。 単元のめあて _____ こたえが10よりおおきくなるたしざんのけいさんのしかたをかんがえて、すらすらとけるようになるろう。	3 次時の学習について話し合う。	まとめ _____ 10のまとまりをつくるとけいさんできる。
・考える方法	○教師と共に簡単な学習計画を立てる。		3 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。

	第4時	第5時	第6時
目 標	◎ブロックなどを用いた算数的活動を通して、被加数が9の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。(数考) ○被加数が9の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算を、加数分解で解決することができる。(表・処)	◎ブロックなどを用いた算数的活動を通して、被加数が8の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。(数考) ○被加数が8の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算を、加数分解で解決することができる。(表・処)	◎被加数が9, 8, 7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法で、加数を分解して計算する方法についての理解を確実にする。(知・理) ○被加数が9, 8, 7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算を、加数分解で解決することができる。(表・処)
型	数理活应用型	数理活应用型	習熟型
学 習 活 動 と 内 容	1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。 問題 $9 + 4 = 13$ みきさんはどんぐりを9こ、たけしさんは4こひろいました。 あわせてなんこひろいましたか。 めあて $9 + 4$ のけいさんのしかたをかんがえよう。 2 自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 (1) 既習をもとに解決の計画を立てる。 ○10のまとまりのつくり方 (2) 解決の計画を実行し、自分の考えをつくる。 ○被加数が9の場合の繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・ブロック操作 ・図や言葉での表現 3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・2人組での考えの説明 ・ブロックを操作しながら発表する。 ・考えの同じところを見だし、ちがうところを確かめる。 まとめ $9 + 4 = 13$  10のまとまりをつくるとけいさんでできる。 4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。	1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。 問題 $8 + 3 = 11$ こどもが8人あそんでいます。 あとから3人くると、みんなでなん人になりますか。 めあて $8 + 3$ のけいさんのしかたをかんがえよう。 2 自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 (1) 既習をもとに解決の計画を立てる。 ○10のまとまりのつくり方 (2) 解決の計画を実行し、自分の考えをつくる。 ○被加数が8の場合の繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・ブロック操作 ・図や言葉での表現 ・計算の図 3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・2人組での考えの説明 ・ブロックを操作しながら発表する。 ・考えの同じところを見だし。 まとめ $8 + 3 = 11$  10のまとまりをつくるとけいさんでできる。 4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。	1 本時のめあてを確認する。 めあて $9, 8, 7$ のたしざんがすらすらとけるようになるろう。 2 練習問題を解き、学習内容の習熟を図る。 ○被加数が9, 8, 7の場合の繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・ブロック操作 ・計算の図 3 考えを共有し、繰り上がりのあるたし算の計算の仕方をまとめる。 ○繰り上がりのあるたし算の計算の仕方の一般化(加数分解) ・2人組の考えの説明 ・ブロックを操作しながら発表する。 ・被加数が違ってても全て10のまとまりをつくれればよいことに気付く。 4 学習感想を書き、本時の学習をふり返る。
○は考える内容 ・考える方法			

	第7時	第8時	第9時
目標	◎ブロックなどを用いた算数的活動を通して、被加数が小さい場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。(数考) ○被加数が小さい場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算について、被加数分解のよさに気付く。(知・理)	◎1位数どうしの繰り上がりのある加法で、被加数を分解して計算する方法についての理解を深める。(知・理) ○被加数が6以下の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算を解決することができる。(表・処)	◎ブロックなどを用いた算数的活動を通して、被加数と加数の大きさに応じて、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。(数考) ○1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算を加数分解や被加数分解で解決することができる。(表・処)
型	数理活用品	習熟型	数理活用品
学習活動と内容	1 本時の学習問題を把握し、めあてを見いだす。 問題 まりこさんがたまごを3こもっています。ひとみさんは、9こもっています。たまごは、あわせてなんこありますか。 めあて 3 + 9 のけいさんのしかたをかんがえよう。 2 自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 (1) 既習をもとに解決の計画を立てる。 ○加数・被加数分解による解決方法の想起 (2) 解決の計画を実行し、自分の考えをつくる。 ○被加数が3の場合の繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・ブロック操作 ・図や言葉での表現 ・計算の図 3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・2人組での考えの説明 ・ブロックを操作しながら発表する。 ・加数分解・被加数分解の考えの比較 ○第4時～第6時までとの違いを明らかにしながらまとめていく。 まとめ $3 + 9 = 12$ ちいさいかずをわけて、10のまとまりをつくるとはよい。 4 本時の学習をふり返る。	1 本時のめあてを見いだす。 めあて 2, 3, 4, 5, 6 のたしざんがすらすらとけるようになる。 2 練習問題を解き、学習内容の習熟を図る。 ○被加数が2～6の場合の繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・ブロック操作 ・計算の図 3 考えを共有し、繰り上がりのあるたし算の計算の仕方をまとめる。 ○繰り上がりのあるたし算の計算の仕方一般化(被加数分解) ・2人組での考えの説明 ・ブロックを操作しながら発表する。 ・被加数が違ってても全て10のまとまりをつくれればよいことに気付く。 4 学習感想を書き、本時の学習をふり返る。	1 本時の学習問題を把握し、めあてを見いだす。 問題 あかいはなが7ほんさいしています。しろいはなが8ほんさいしています。はなは、ぜんぶでなんほんさいしていますか。 めあて 7 + 8 のけいさんのしかたをかんがえよう。 2 自分の考えをつくる。 『自分の考えをつくる場』 (1) 既習をもとに解決の計画を立てる。 ○加数・被加数分解による解決方法の想起 (2) 解決の計画を実行し、自分の考えをつくる。 ○被加数が7の場合の繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・ブロック操作 ・図や言葉での表現 ・計算の図 3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。 『考えを高め合う場』 ○繰り上がりのあるたし算の計算の仕方 ・2人組での考えの説明 ・ブロックを操作しながら発表する。 ・加数分解・被加数分解の考えの比較 まとめ どちらかのかずをわけて、10のまとまりをつくとけいさんできる。 4 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。
○は考える内容 ・考える方法			

	第10・11時	第12時
目 標	◎計算カードを用いた活動を通して、1位数どうしの繰り上がりのある加法の計算能力を高める。(表・処)	◎学習した内容を活用して、学んだことのよさを味わう。(関・意・態)
型	習熟型	エピローグの場
学 習 活 動 と 内 容	<p>1 本時のめあてを見いだす。</p> <p>めあて _____</p> <p>けいさんカードをつかって、たしざんがすらすらとけるようにれんしゅうしよう。</p> <p>2 計算カードを使ったゲームに取り組み、計算技能の習熟を図る。</p> <p>○計算カードを使つての練習 (内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カード並べ ・大きさをくらべ ・カード取り ・カード合わせ (人数) ・個人で ・2人組で ・グループで <p>3 学習感想を書き、本時の学習をふり返る。</p>	<p>1 本時のめあてを見いだす。</p> <p>めあて _____</p> <p>がくしゅうしたことをつかって、もういちどカードゲームをしよう。</p> <p>2 カードを用いて、プロローグの場で行ったカードゲームの活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すらすらできるようになったよ。 ・10のまとまりをつくとすぐ計算できるね。 <p>3 単元の学習についてふり返る。</p> <p>○プロローグの場の活動や学習計画をもとに、分かったこと、できるようになったことについて話し合い、学んだことのよさを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わざカード12(がくしゅうしたけいさんをつかって)に、できるようになった計算を加える。 <p>まとめ _____</p> <p>こたえが10よりおおきくなるたしざんは、かずをわけて10のまとまりをつくとよい。</p>
○は考える内容		
・考える方法		

本時（3/12 数理獲得型—後半）

5 本時の目標

- ◎ 小集団から全体交流への話し合いを通して、問題の解決方法を共有し、繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。 (数考)
- 被加数が7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算では、10のまとまりをつくればよいことを理解できる。 (知・理)

6 本時指導の考え方

前時までに児童は、被加数が7の場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を、ブロックを用いた算数的活動を通して、図と言葉で表現し解決してきている。そこで、本時では、考えを説明する機会や考えの違いに気付くために、小集団と全体による交流を「共有する過程」に取り入れることで、10のまとまりをつくればよいことを感得し、考える楽しさを味わうことができるようにしたい。

そのために、前時の「つくる」過程における『自分の考えをつくる場』で考えた図的表現をもとに繰り上がりのある加法計算の仕方を想起し、本時のめあてを確認する。

「共有する」過程では、小集団による交流から全体による交流へつなぎ、以下のような指導の工夫を行っていく。

はじめに、一人一人が考えを説明する機会をもてるように、2人組の話し合いを取り入れる。席順別の隣どうし2人組で、ブロックを動かしながら自分の考えを説明する。その際、児童が活発に話し合いを進めることができるように、「2人組の話し合いの仕方」を掲示し、着目させる。

小集団による交流の後、自分の考えの強化や友達との考えとの違いに気付く場として、全体による交流を取り入れる。

そのために、共有する方法として、交流の流れを以下のように考えている。

- ① (ア) 5を分けて10のまとまりをつくる考え(加数分解)を、ブロックを操作しながら代表児童が発表する。
- ② (イ) 7を分けて10のまとまりをつくる考え(被加数分解)を、ブロックを操作しながら代表児童が発表する。
- ③ 2つの考え(ア)と(イ)の「にているところ」「ちがうところ」に目をつけて話し合い、共通点からどちらも10のまとまりをつくっていることをおさえる。

説明する際には、ブロックを動かしながら順序よく話すようにする。また、全体交流の中で、発表された考えを比較しながら計算の仕方を共有していくために、「話し合いの進め方と話し方」を掲示物として常掲し、活用できるようにする。

「まとめる」過程では、アの考えとイの考えの共通点を再確認し、問題が解決できたよさについて話し合う。どちらも10のまとまりをつくと解決できたことから、10のまとまりをつくるよさを感じ得るようにし、本時のまとめへとつなぐ。また、たしかめ問題として、被加数が7の場合と加数が5の場合の計算を適用問題として解決させる。最後に、3観点による自己評価と自由記述による学習感想を書くことを通して自分の学びをふり返り、達成感や成就感を味わうことができるようにする。

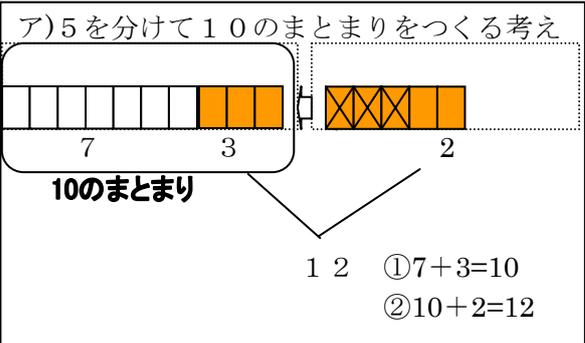
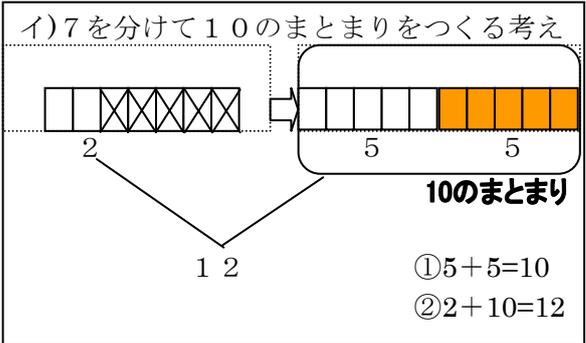
7 準備

教師：「わざカード」、既習内容の掲示物、全体交流用ブロック、情景図、

「2人組の話し合いの仕方」、「話し合いの進め方と話し方」

児童：ブロック、ブロックケース、個人「わざカード」

8 学習展開

過程	学習活動と内容	学習を促すための具体的な手立て
共有する る ／ ま と め る	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを確認する。</p>	<p>○ 小集団による交流の意義を明確にするために、自力解決の様子をふり返り、伝える。</p>
	<p>めあて _____ 7 + 5 のけいさんのしかたをはなしあって、たしかめよう。</p>	
	<p>2 考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>『考えを高め合う場』</p> <p>【小集団による交流】 目的：考えを説明する機会として 組み方：席順別（隣の児童と） 人数：2人組</p>	<p>○ 被加数・加数分解どちらの考えにも気付くことができる5のまとまりに着目した問題提示をする。</p> <p>○ 「2人組の話し合いの仕方」を掲示し、ふり返ることにより、小集団による交流を活性化させる。</p> <p>○ 全体による交流の流れがわかるように「全体交流の進め方と話し方」を常掲しておく。</p>
	<p>【全体による交流】－【発表する考え】</p> <p>ア) 5を分けて10のまとまりをつくる考え</p>  <p>イ) 7を分けて10のまとまりをつくる考え</p> 	
<p>【交流活動の流れ】</p> <p>① 全体交流において、アの考え、イの考えの順に代表児が発表する。</p> <p>② それぞれの考えの「にているところ」、「ちがうところ」を出し合い、ブロック図と式を対応して考える。</p> <p>③ アの考えとイの考えの共通点を見だし、10のまとまりをつくれればよいことをおさえる。</p>		
<p>まとめ _____ 10のまとまりをつくると、けいさんできる。</p>	<p>○ アとイの考えの違いが理解できるように、もう一度ブロック操作を教師と共にする。</p>	
<p>3 たしかめ問題を解決し、本時の学習をふり返る。</p> <p>(1) たしかめ問題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 + 6 ・ 8 + 5 <p>(2) 学習感想を書く。</p>	<p>○ たしかめ問題は、被加数が7の問題と加数が5の問題を用意し、ブロック操作しながら答えを求めるようにする。</p> <p>○ 自分の学びをふり返るために、3観点による自己評価と自由記述による学習感想を書くようにする。</p>	

本時（7/12 数理活用型）

5 本時の目標

- ◎ ブロックなどを用いた算数的活動を通して、被加数が小さい場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考える。(数考)
- 被加数が小さい場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算について、被加数分解のよさに気付く。(知・理)

6 本時指導の考え方

本時は、10のまとまりをつくる考えや既習のたし算に帰着させる考えをもとに、被加数が小さい場合の1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えることを通して、考える楽しさを味わうことができるようにしたい。

そのために、「見いだす」過程では、情景図を用いて問題を提示し、問題文に印を付けて意味をとらえる。立式後、めあてをつかめるように、掲示物をもとに既習との違いを明らかにする。

「つくる」過程では、まず「わざカード」の中から考えるために使えるものについて話し合う。そして掲示物をもとに、第2・3時でのいろいろな10のかたまりづくりを想起し、3か9のどちらかに10のかたまりをつくれればよいことに気付かせて、確かな見通しがもてるようにする。

『自分の考えをつくる場』では、 $3+9$ の計算の仕方を、10のまとまりに着目する考えや繰り上がりのない加法計算の仕方などの既習内容をもとにして考えることができるようにしたい。

そのために、考える方法として、以下の3点を手立てとして自分の考えをつくられるよう支援する。

- ① 既習内容の掲示と活用・・・ $8+3$ の計算の仕方、10のまとまりに着目した $10+1$ の計算の仕方を掲示し、ふり返る。
- ② ブロックを用いた操作的活動・・・問題にそってお話しながら、順に操作し答えを見つけていく。ブロックケースを被加数・加数双方で使い、どちらでも自分の考えに従って10のかたまりをつくられるようにする。
- ③ 図やさくらんぼ計算による表現活動・・・図のかき方（合わせるは○ 動かすは→ 大事な数、言葉を書き込むなど）を学び方として身に付けさせておき、自分の考えを明らかにできるようにする。

「共有する」過程における『自分の考えを高め合う場』では、(ア) 9を分けて10のまとまりをつくる考え（加数分解）(イ) 3を分けて10のまとまりをつくる考え（被加数分解）の「ちがうところ」「にているところ」やよさについて話し合いながら、 $3+9$ の計算の仕方を考える。

そのために、共有する方法として、交流の流れを次のように仕組む。

はじめに、隣どうし2人組で、ブロックを動かしながら自分の考えを説明する場を設定する。一人一人が相手に自分の考えを伝える・聴くことによって、自分の考えをより確かにできると考える。次に全体の場で、(ア)、(イ)の代表児がブロック操作をしながら発表する。また、計算の図（さくらんぼ計算）で考えを表現している児童を取り上げ、ブロック図と結びつけながら、10のまとまりのつくり方を確かめる。そして、2つの考えの「ちがうところ」「にているところ」に着目して話し合い、相違点から被加数分解の考え（前の数3を分けて $1+9$ をする）を明らかにする。その際、本時では、被加数分解をした方がより速く10のまとまりがつかれることにも着目できるようにする。

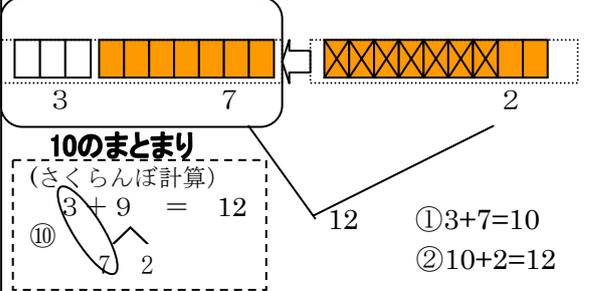
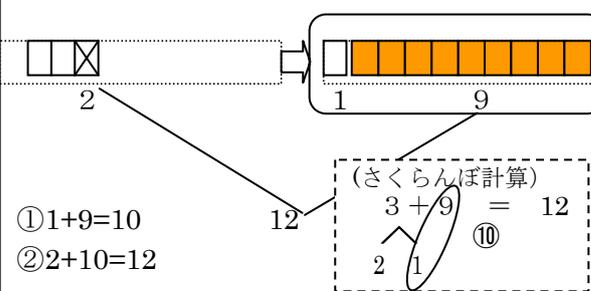
「まとめる」過程では、 $3+9$ の計算の仕方をブロック操作に戻ってふり返り、本時の被加数分解のよさを再確認しながら、どちらも10のまとまりをつくっていることをおさえ、既習とつなぐ。

7 準備

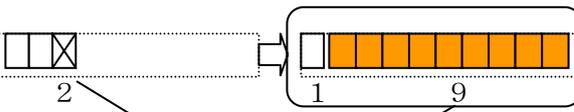
教師：「わざカード」、既習内容の掲示物、情景図、全体交流用ブロック

児童：ブロック、ブロックケース、個人「わざカード」

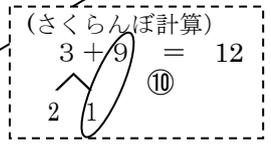
8 学習展開

過程	学習活動と内容	学習を促すための具体的な手立て
見 い だ す	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてを見いだす。</p> <p>(1) 問題文に印をつけ、問題の意味をとらえる。</p> <p>問 題</p> <p>まりこさんがたまごを3こもっています。ひとみさんは、9こもっています。たまごは、あわせてなんこありますか。</p>	<p>○ 問題の意味を把握できるように、問題文に印をつけることを毎時間継続していく。</p>
	<p>(2) 前時との違いから、めあてを見いだす。</p> <p>めあて</p> <p>3 + 9 (まえのかずがちいさいしぎん) のけいさんのしかたをかんがえよう。</p>	<p>○ 前時学習内容の掲示物を用いて、本時は被加数が小さいたし算であることをおさえる。</p>
つ く る	<p>2 解決の見通しを立て、自分の考えをつくる</p> <p>(1) 既習内容を想起し、解決の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを使ったら考えられる。 ・10のまとまりをつくるといいかな。 <p>(2) 自分の考えをつくる。</p> <p>『自分の考えをつくる場』</p> <p>【見通し】</p> <p>「わざカード」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックず ・うごかしてかんがえる ・やじるし・がくしゅうしたけいさんをつかって ・10のまとまりをつくる ・ことばでせつめい 	<p>○ 既習内容 (8 + 3の計算の仕方) の掲示物を準備し、前時までは、すべて10のまとまりをつかって解決してきたことを想起できるようにする。</p> <p>○ 思考の流れが分かるようにするために、使える「わざカード」について話し合いをもつ。</p>
	<p>ア) 9を分けて10のまとまりをつくる考え</p>  <p>イ) 3を分けて10のまとまりをつくる考え</p> 	
共 有 す る	<p>3 考えを共有し、本時の学習をまとめる。</p> <p>『考えを高め合う場』—【交流活動の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 隣どうし2人組で、自分の考えを説明し合う。 ② ア、イそれぞれの考えの代表児がブロック操作をしながら全体の場で発表する。 ③ アとイの考えの「ちがうところ」「にているところ」を話し合う。 	
	<p>まとめ</p> <p>ちいさいかず3をわけて、10のまとまりをつくるとはよい。</p>	<p>○ ブロック操作にかえて被加数分解のよさを確かめ、3 + 9の計算の仕方をまとめる。</p>
	<p>4 本時の学習をふり返る。</p>	

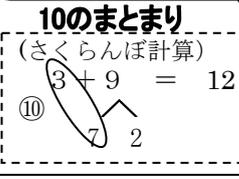
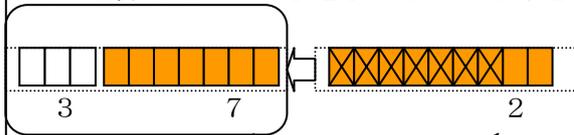
イ) 3を分けて10のまとまりをつくる考え



- ① $1+9=10$
- ② $2+10=12$



ア) 9を分けて10のまとまりをつくる考え



- ① $3+7=10$
- ② $10+2=12$

